

岡山県感染症週報 2014 年 第 52 週 (12 月 22 日～12 月 28 日)

【お知らせ】次週、2015 年第 1 週(12/29～1/4)の感染症週報は、1 月 13 日(火)にホームページに掲載いたします。

岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です。
岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

◆2014 年 第 52 週 (12/22～12/28) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 50 週 2 類感染症 結核 9 名 (幼児 男 1 名、20 代 女 1 名、60 代 女 2 名、70 代 男 1 名、80 代 男 1 名・女 3 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 男)
 5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (60 代 女)
 ジアルジア症 1 名 (40 代 男)
 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (50 代 男)
 水痘 (入院例) 2 名 (乳児 男 1 名、80 代 男 1 名)
 梅毒 2 名 (10 代 男 1 名、80 代 男 1 名)
 第 51 週 2 類感染症 結核 1 名 (20 代 女)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 50 代 男)
 5 類感染症 アメーバ赤痢 1 名 (30 代 男)
 第 52 週 2 類感染症 結核 2 名 (50 代 男 1 名・女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O121 : 10 代 女)
 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (20 代 女)

※水痘 (5 類感染症) については、患者が入院を要すると認められる場合のみ、全数把握感染症 (5 類感染症) として報告することとなりました。 (2014 年 9 月 19 日～)

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 1287 名 (定点あたり 6.01 → 15.32 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 689 名 (定点あたり 14.46 → 12.76 人) の報告があり、前週より減少しました。
 ○RS ウィルス感染症は、県全体で 84 名 (定点あたり 2.09 → 1.56 人) の報告があり、前週より減少しました。

1. インフルエンザは、県全体で 1287 名 (定点あたり 6.01 → 15.32 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。全ての地域で報告数が大きく増加しており、急速に流行が拡大しています。発生レベル 2 の地域は、倉敷市 (25.63 人) に加えて、新たに備中地域 (21.50 人)、備前地域 (13.60 人) 及び岡山市 (13.32 人) となりました。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧下さい。
2. 感染性胃腸炎は、県全体で 689 名 (定点あたり 14.46 → 12.76 人) の報告があり、前週より減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。備北地域及び美作地域で、発生レベル 3 が継続しています。手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「感染性胃腸炎週報」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. RS ウィルス感染症は、県全体で 84 名 (定点あたり 2.09 → 1.56 人) の報告があり、2 週連続で減少しましたが、依然として多い状態です。地域別では、岡山市 (2.43 人)、倉敷市 (2.09 人)、備中地域 (1.43 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、発熱やせきなど風邪のような症状のため、感染していることに気づかず、人にうつしてしまうことがあります。重症化する危険性の高い乳児と接する人は、風邪をひいたらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかり手を洗う、乳幼児が使うおもちゃ・手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒するなど、感染予防に努めましょう。また、乳児が感染した場合は、お子さんの様子に十分注意し、熱が下がっても症状が改善しない、ゼイゼイとのどが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。
4. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 51 週に 1 名、第 52 週に 1 名の報告があり、2014 年累計報告数は 70 名となりました。岡山県では、「腸管出血性大腸菌感染症 警報」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。この感染症は、例年冬には発生が減少する傾向にあります。気温が下がっても感染の可能性はあります。食肉の生食は避ける、肉の中心部まで火を通すなど、通常の食中毒予防を励行し、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★★★	RSウイルス感染症	↑	★★★★★
咽頭結膜熱	↑	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★
感染性胃腸炎	↑	★★	水痘	↑	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↑	★★
突発性発疹	↑	★	百日咳	↑	★★
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	↑	★
急性出血性結膜炎	↑		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	↑		無菌性髄膜炎	↑	
マイコプラズマ肺炎	↑		クラミジア肺炎	↑	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑				

【記号の説明】 ・前週からの推移 : ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減

↑ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

・発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成25年第42週から報告対象となつたため、前週からの推移のみ表示しています。

◆インフルエンザ、感染性胃腸炎、
RSウイルス感染症が流行しています。

- * 外出後・調理前・食事前は手洗いをしましょう。
- * 外出後はうがいをしましょう。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 咳やくしゃみなどの症状があるときは、咳エチケットを心がけ、周囲の人につながるよう気をつけましょう。

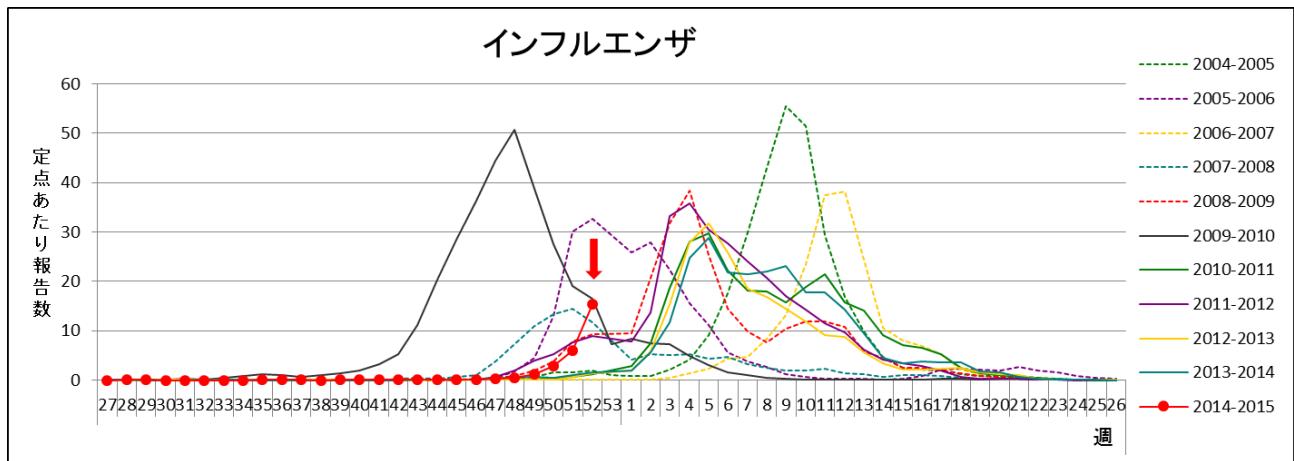
インフルエンザ週報 2014 年 第 52 週 (12 月 22 日 ~ 12 月 28 日)

【お知らせ】次週、2015 年第 1 週(12/29~1/4)のインフルエンザ週報は、1 月 13 日(火)にホームページに掲載いたします。

岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 1287 名（定点あたり 6.01 → 15.32 人）の発生があり、前週より大きく増加しました。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は 5 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 3 名の報告がありました。



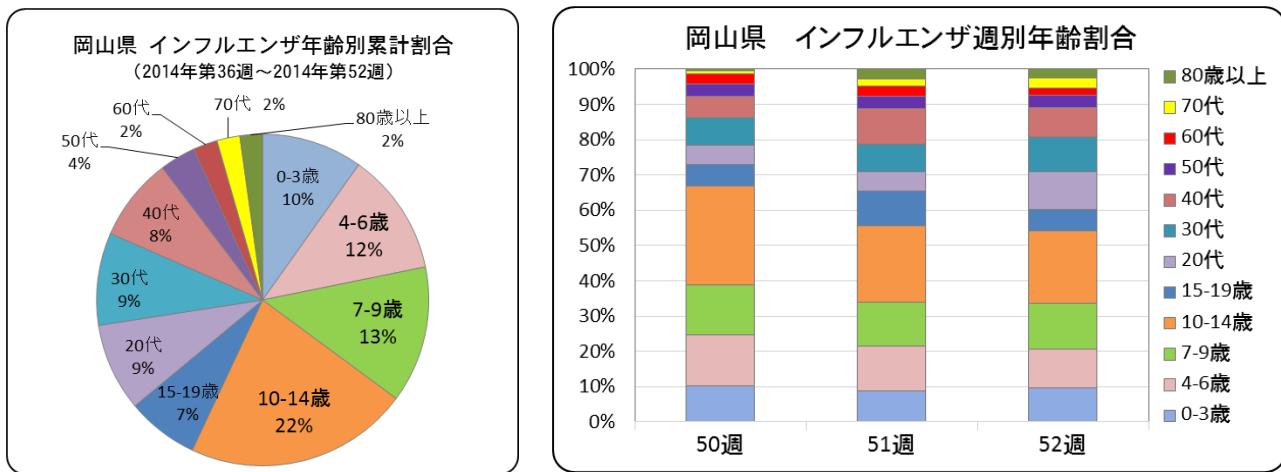
※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週～翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1287 名（定点あたり 6.01 → 15.32 人）の報告があり、前週より大きく増加しました（84 定点医療機関報告）。岡山県では、第 47 週（11/17～11/23）以降、患者の増加が続いており、12 月 11 日「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。

地域別では、倉敷市（25.63 人）、備中地域（21.50 人）、備前地域（13.06 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全ての地域で大きく増加しました。発生レベル 2 の地域は、倉敷市に加えて、新たに備中地域、備前地域及び岡山市（13.32 人）となりました。学校等の臨時休業は、ほとんどの学校が冬休みに入ったことが影響し、5 施設と前週（18 施設）より減少しました。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『充分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

1. 年齢別発生状況



今シーズン（2014 年 9 月 1 日～）年齢別累計割合は、10-14 歳 22%、7-9 歳 13%、4-6 歳 12% の順で報告数が多くなりました。流行の中心は、学校生活をしている年齢層ですが、20 歳以上の成人でも患者数が増加しており、全ての年齢層で注意が必要です。

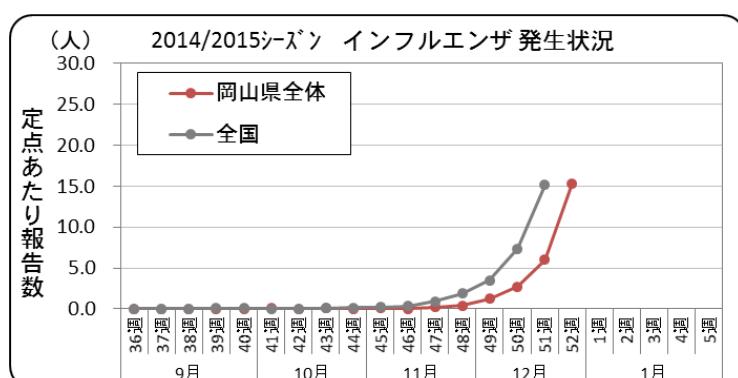
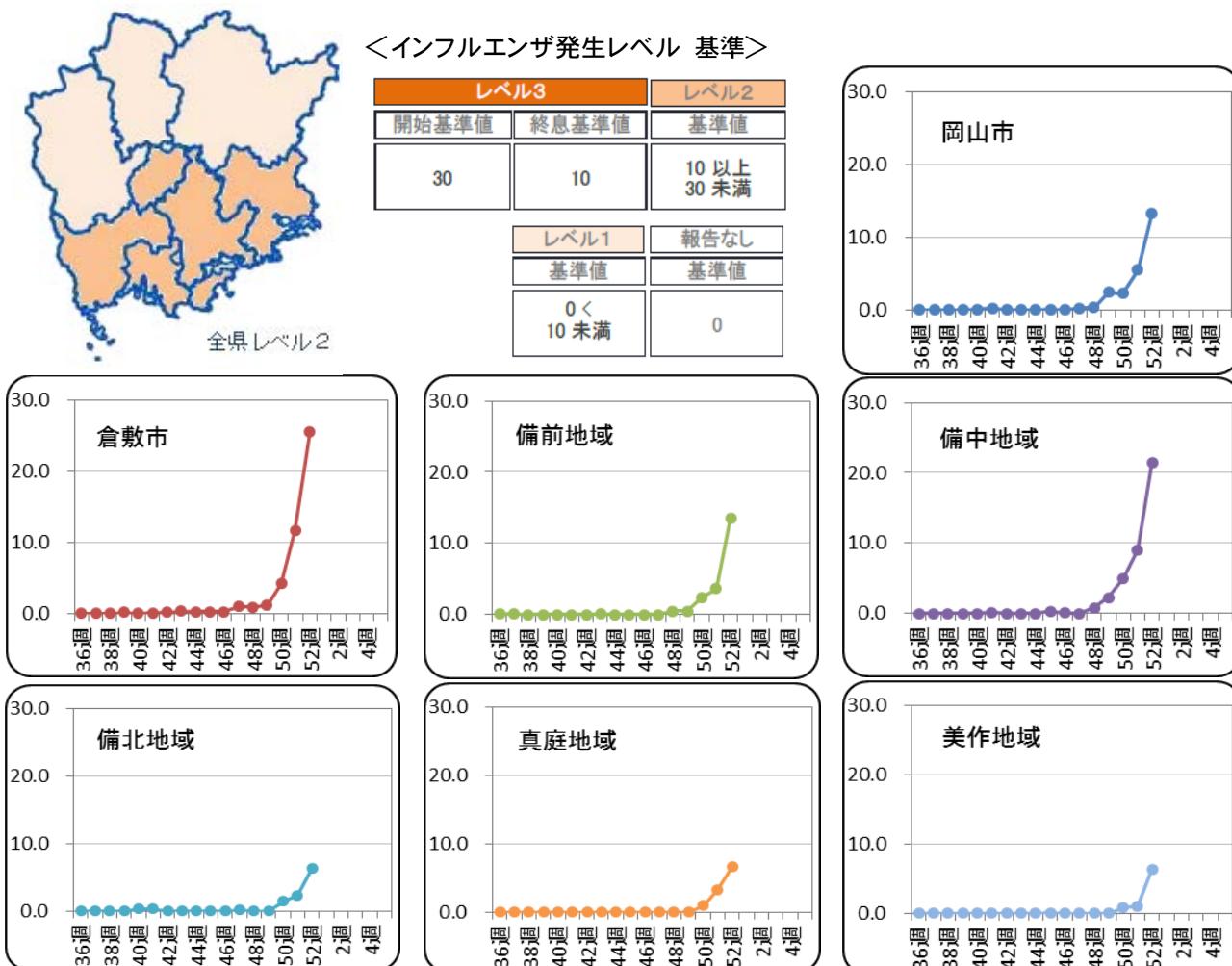
2. 地域別発生状況

前週からの推移 (単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1287	↑	備 中	患者数	258	↑
	定点あたり	15.32			定点あたり	21.50	
岡山市	患者数	293	↑	備 北	患者数	38	↑
	定点あたり	13.32			定点あたり	6.33	
倉敷市	患者数	410	↑	真 庭	患者数	20	↑
	定点あたり	25.63			定点あたり	6.67	
備 前	患者数	204	↑	美 作	患者数	64	↑
	定点あたり	13.60			定点あたり	6.40	

【記号の説明】 前週からの推移 : 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ↗ 1.1~2倍未満の増加 ↙ 2倍以上の増加 ↑

インフルエンザ感染症マップ



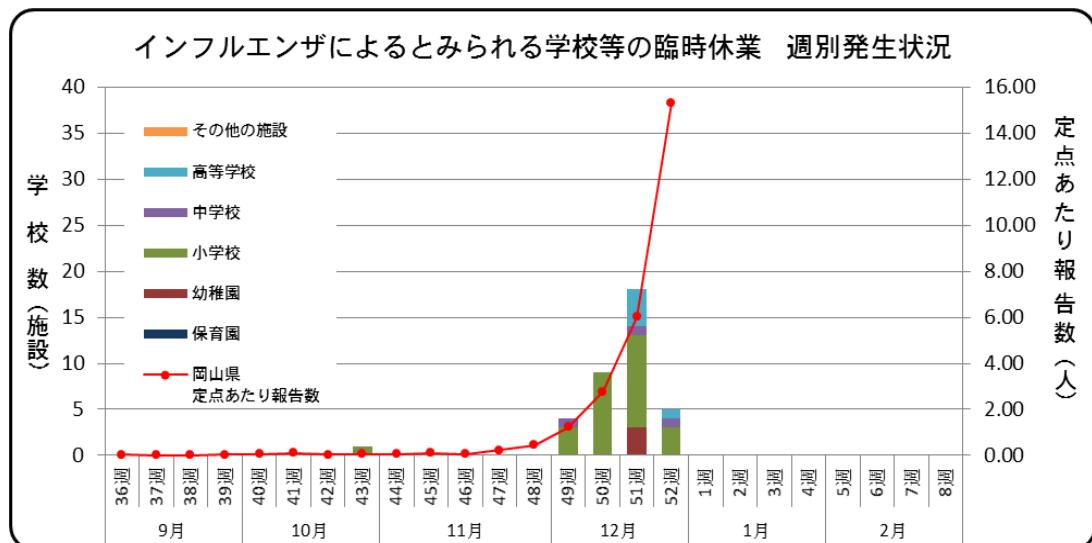
全国集計第51週 (12/15~12/21) によると、全国の定点あたり報告数は15.17人であり、第43週以降増加が続いています。都道府県別では、埼玉県(35.38人)、北海道(25.95人)、岩手県(24.73人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、全47都道府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 5 施設でありました。

【第 52 週 臨時休業施設数】

▽岡山市 1 ▽倉敷市 1 ▽総社市 1 ▽笠岡市 2



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	162	650	117	503	5	38	0	1	1	9	4	28	H26.10.21
岡山市	14	185	12	144	1	10	—	—	0	1	1	9	H26.12.1
倉敷市	96	231	77	182	1	10	0	1	1	2	0	7	H26.10.21
備前地域	0	21	0	20	0	2	—	—	0	1	0	1	H26.12.9
備中地域	52	193	28	145	3	14	—	—	0	3	3	11	H26.12.8
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	0	20	0	12	0	2	—	—	0	2	—	—	H26.12.16
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 52 週：5 施設

累計：38 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	3	3	27	1	3	1	5	—	—

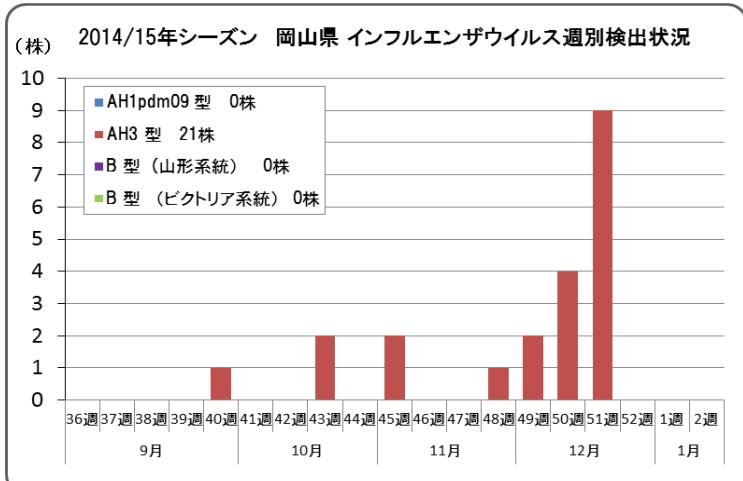
4. インフルエンザウイルス検出状況

第52週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3型が11株でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が21株（100%）となっています。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型 789株、B型 25株、AH1pdm09型 12株、A型亜型不明 3株でした。

（2015年1月7日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報
（国立感染症研究所））](#)



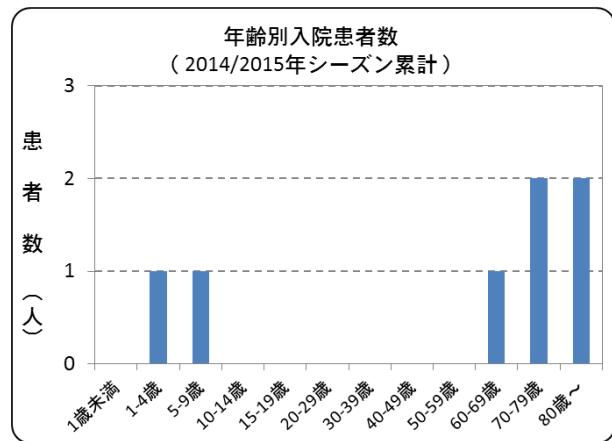
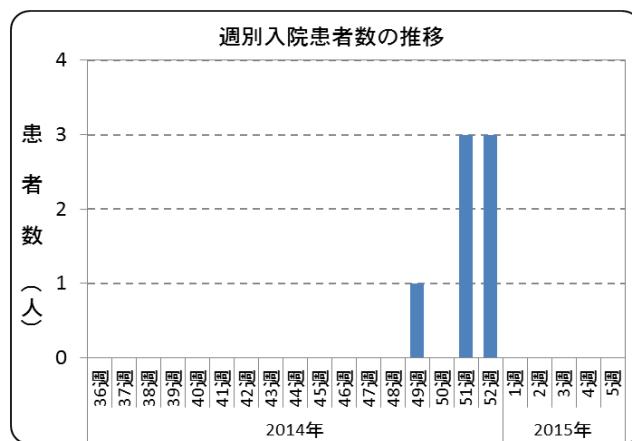
【第52週判明分】

ウィルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/20	岡山市	小学生	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/19	岡山市	中学生	女
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/19	岡山市	幼児	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/17	岡山市	幼児	女
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/16	真庭	小学生	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/16	真庭	小学生	女
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/16	真庭	小学生	女
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/16	真庭	小学生	女
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第51週(12/15～12/21)	2014/12/16	真庭	小学生	女
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第50週(12/8～12/14)	2014/12/9	備中	小学生	男
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第50週(12/8～12/14)	2014/12/9	備中	小学生	男

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点5医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3名（1～4歳 1名、60代 1名、80代 1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 52 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1								1		1	3
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)										1			1
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		1										1	2

* 重複あり

【平成 26 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1							1	2	2	7
ICU 入室											1		1
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)										1			1
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		1	1								1	2	5

* 重複あり

《インフルエンザの予防接種はお早めに！》

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、[2週間程度かかります](#)。
今年は、昨年より3週間ほど早い流行シーズン入りとなっており、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

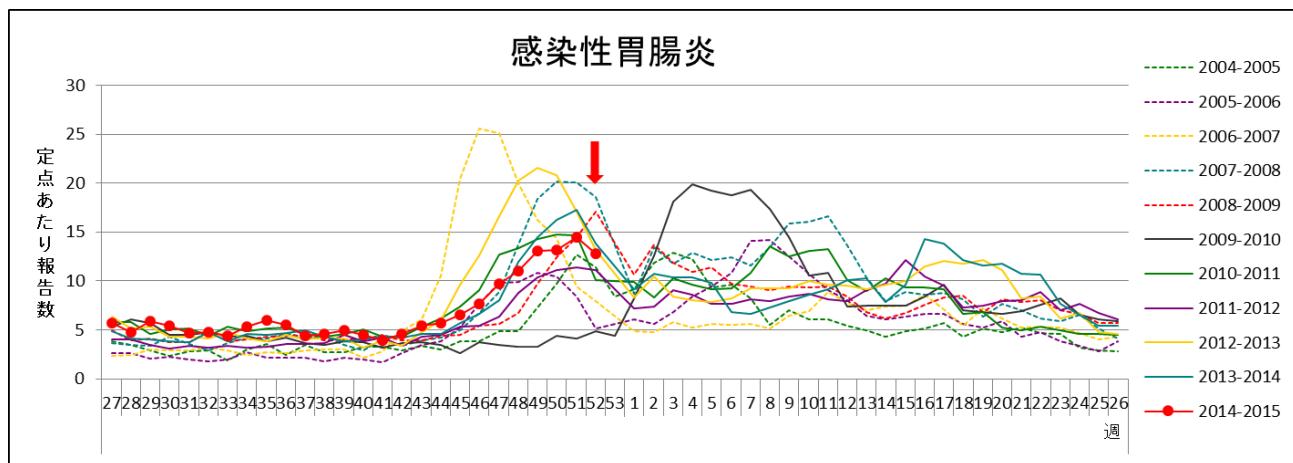
- * 65歳以上の方
- * 60~64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

感染性胃腸炎週報 2014 年 第 52 週 (12 月 22 日 ~ 12 月 28 日)

【お知らせ】次週、2015 年第 1 週(12/29~1/4)の感染性胃腸炎週報は、1 月 13 日(火)にホームページに掲載いたします。

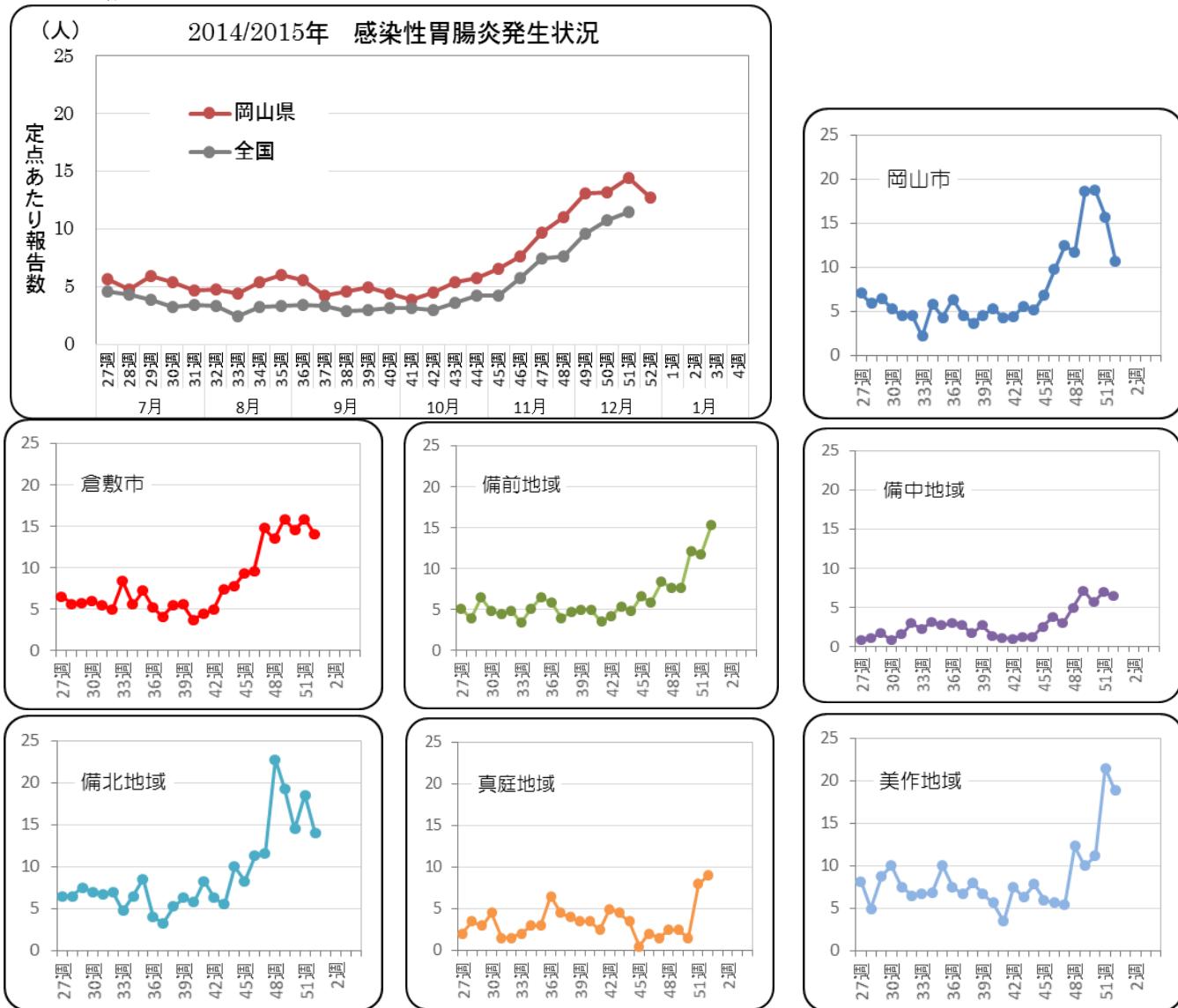
○感染性胃腸炎は、県全体で 689 名（定点あたり 14.46 → 12.76 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

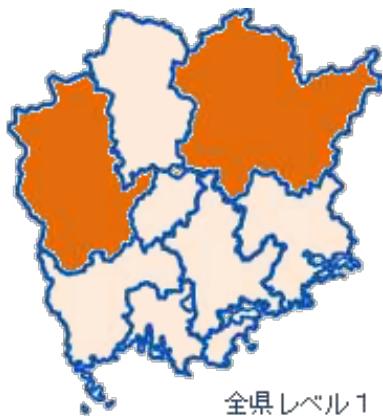
感染性胃腸炎は、県全体で 689 名（定点あたり 14.46 → 12.76 人）の発生があり、前週より減少しました。第 42 週（10/13～10/19）以降、報告数の増加が続いていましたが、約 2か月半ぶりに減少しました。しかし、依然として患者が多い状態で推移しています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、美作地域（18.83人）、備前地域（15.40人）、倉敷市・備北地域（14.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域と真庭地域で増加がみられました。また、備北地域及び美作地域で発生レベル3が継続しています。年齢別累計では、5歳以下の乳幼児が全体の62%を占めています。

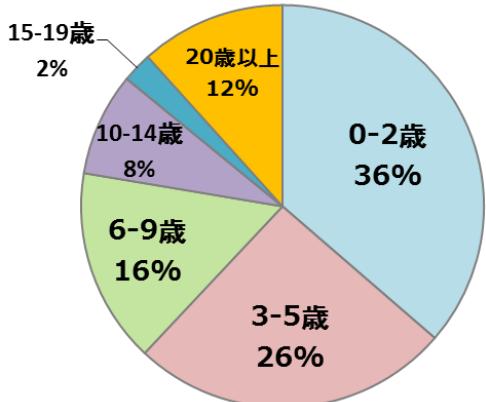
感染性胃腸炎感染症マップ 2014年52週



レベル3	レベル1	報告なし	
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 < 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないと
レベル3が継続されます。

感染性胃腸炎 年齢別累計割合
(2014年第27週～2014年第52週)



ノロウイルスに感染しないためには

- 最も大切なことは手を洗うことです。
排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
- 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。
嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、嘔吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。
- 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。
嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。
※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。
- 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省ホームページ）](#)

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県ホームページ生活衛生課）](#)

保健所別報告患者数 2014年 52週

(2014/12/22～2014/12/28)

2015年1月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1287	15.32	293	13.32	410	25.63	204	13.60	258	21.50	38	6.33	20	6.67	64	6.40
RSウイルス感染症	84	1.56	34	2.43	23	2.09	10	1.00	10	1.43	4	1.00	-	-	3	0.50
咽頭結膜熱	21	0.39	6	0.43	4	0.36	-	-	4	0.57	1	0.25	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	0.93	21	1.50	7	0.64	3	0.30	5	0.71	3	0.75	-	-	11	1.83
感染性胃腸炎	689	12.76	149	10.64	154	14.00	154	15.40	45	6.43	56	14.00	18	9.00	113	18.83
水痘	65	1.20	21	1.50	12	1.09	11	1.10	4	0.57	9	2.25	-	-	8	1.33
手足口病	30	0.56	8	0.57	5	0.45	6	0.60	7	1.00	3	0.75	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	8	0.15	2	0.14	4	0.36	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	17	0.31	10	0.71	3	0.27	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
百日咳	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	9	0.17	2	0.14	-	-	3	0.30	-	-	-	-	-	-	4	0.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 52週

(2014/12/22～2014/12/28)

2015年1月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1287	15.32	293	13.32	410	25.63	204	13.60	258	21.50	38	6.33	20	6.67	64	6.40
咽頭結膜熱	21	0.39	6	0.43	4	0.36	—	—	4	0.57	1	0.25	1	0.50	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	0.93	21	1.50	7	0.64	3	0.30	5	0.71	3	0.75	—	—	11	1.83
感染性胃腸炎	689	12.76	149	10.64	154	14.00	154	15.40	45	6.43	56	14.00	18	9.00	113	18.83
水痘	65	1.20	21	1.50	12	1.09	11	1.10	4	0.57	9	2.25	—	—	8	1.33
手足口病	30	0.56	8	0.57	5	0.45	6	0.60	7	1.00	3	0.75	—	—	1	0.17
伝染性紅斑	8	0.15	2	0.14	4	0.36	—	—	1	0.14	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.25	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	3	0.06	1	0.07	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	9	0.17	2	0.14	—	—	3	0.30	—	—	—	—	—	—	4	0.67
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
 薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第52週 2014/12/22～2014/12/28)

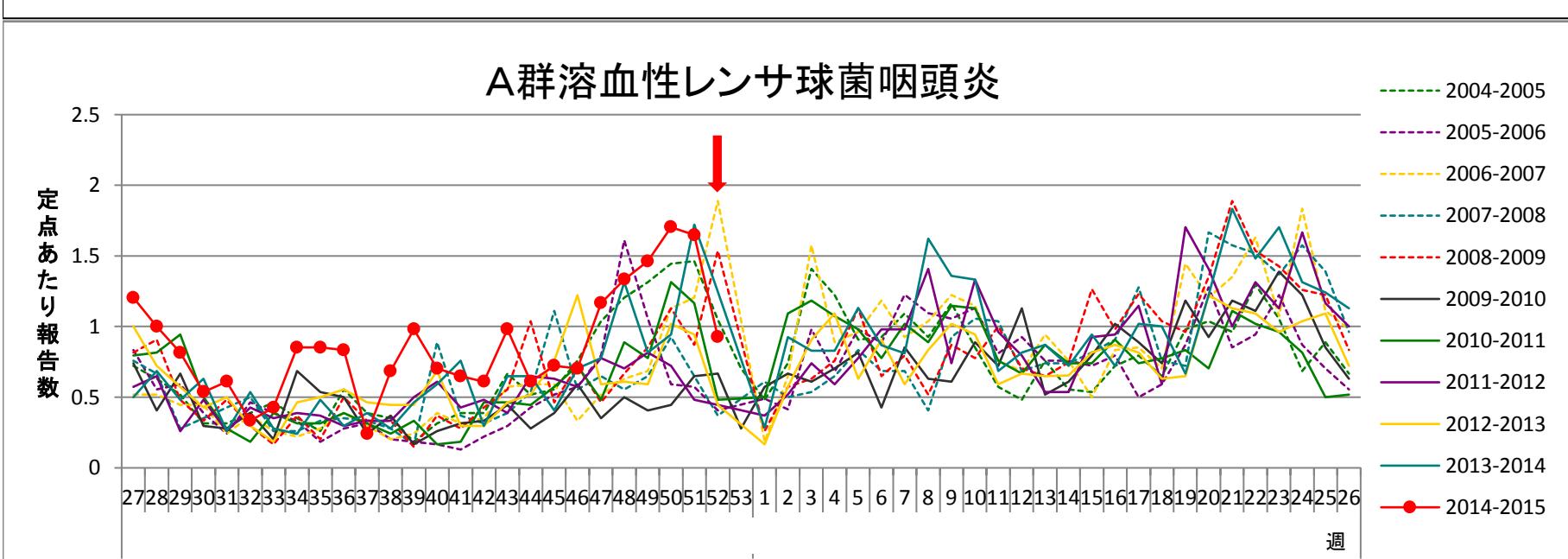
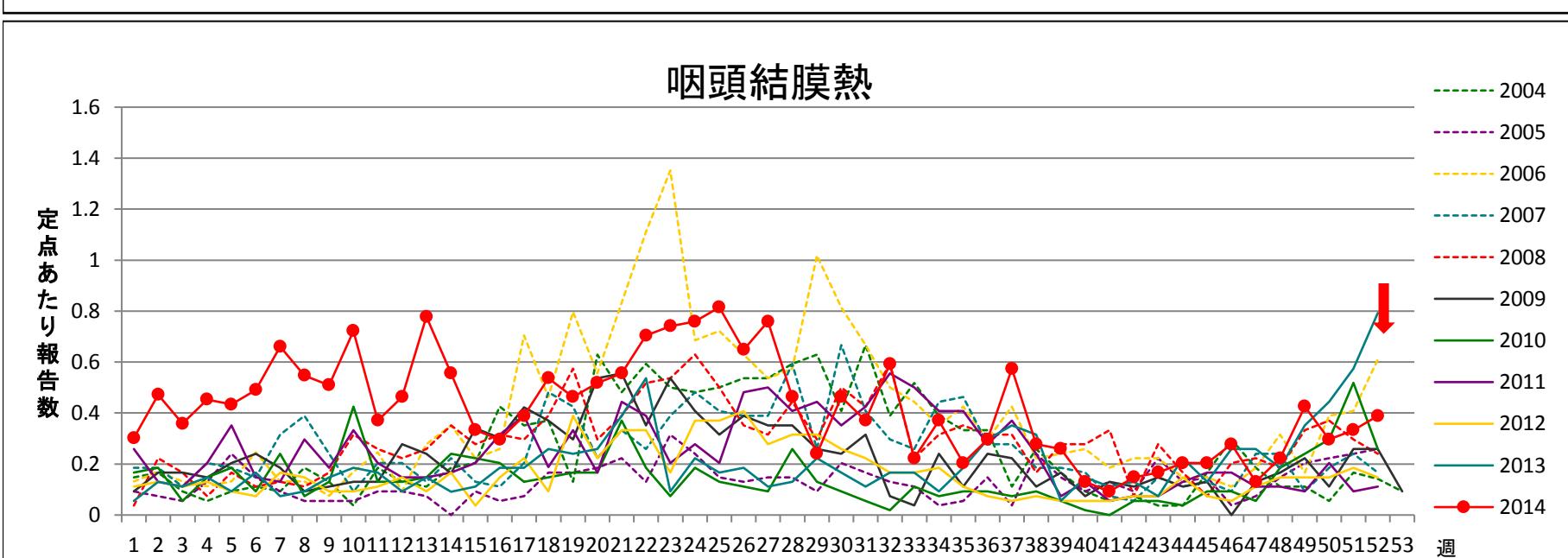
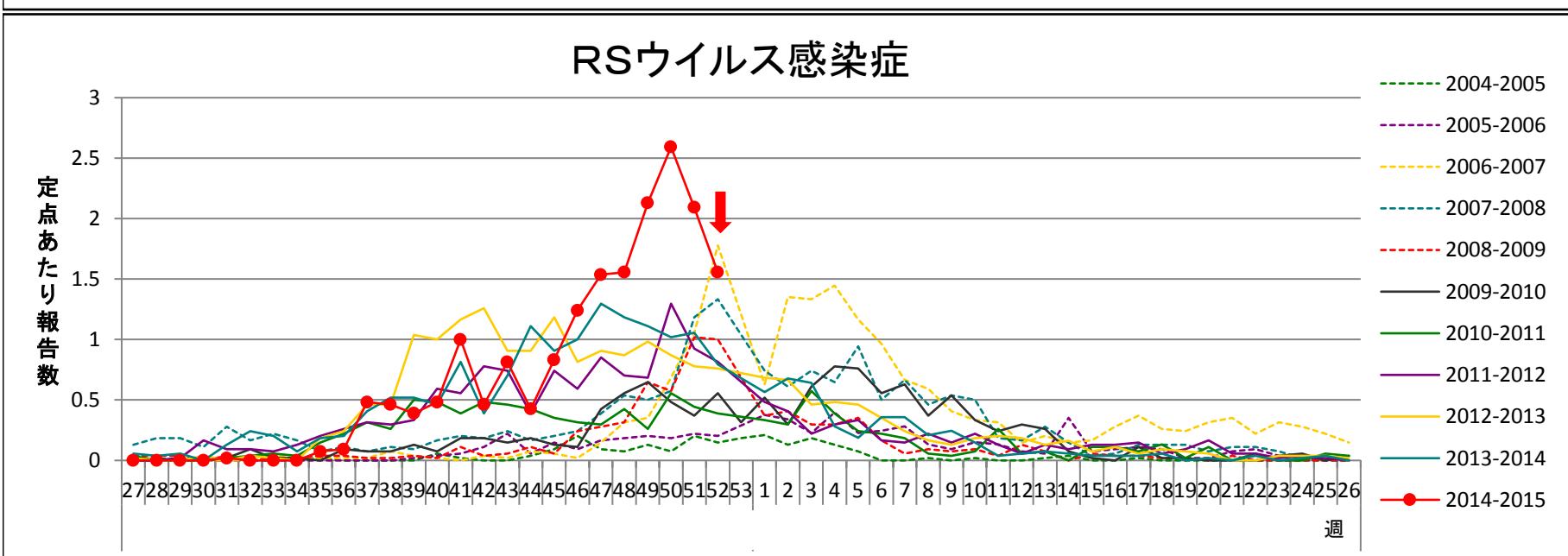
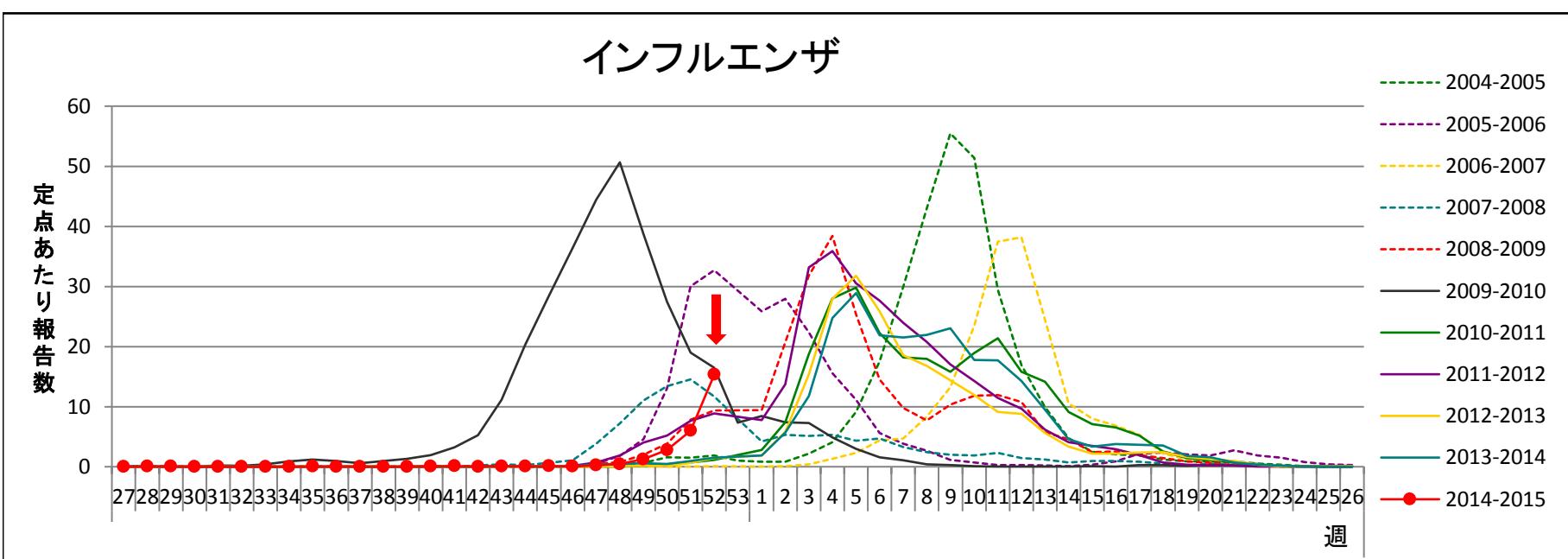
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1287	1	10	32	45	37	39	44	57	70	60	39	263	80	136	127	107	44	28	36	32
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～						
RSウイルス感染症	84	31	15	23	5	7	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
咽頭結膜熱	21	—	4	5	2	2	1	2	3	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	—	—	4	5	5	5	10	7	2	3	3	3	3	—	—	3	—	—	—	
感染性胃腸炎	689	15	51	97	76	70	60	60	33	27	18	13	57	13	99	—	—	—	—	—	
水痘	65	—	1	9	7	9	7	11	7	5	6	1	2	—	—	—	—	—	—	—	
手足口病	30	1	1	9	5	2	4	4	2	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	
伝染性紅斑	8	—	—	1	1	—	1	3	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
突発性発疹	17	2	10	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
百日咳	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
ヘルパンギーナ	3	—	—	2	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
流行性耳下腺炎	9	—	—	—	1	1	1	—	2	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
流行性角結膜炎	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～				
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

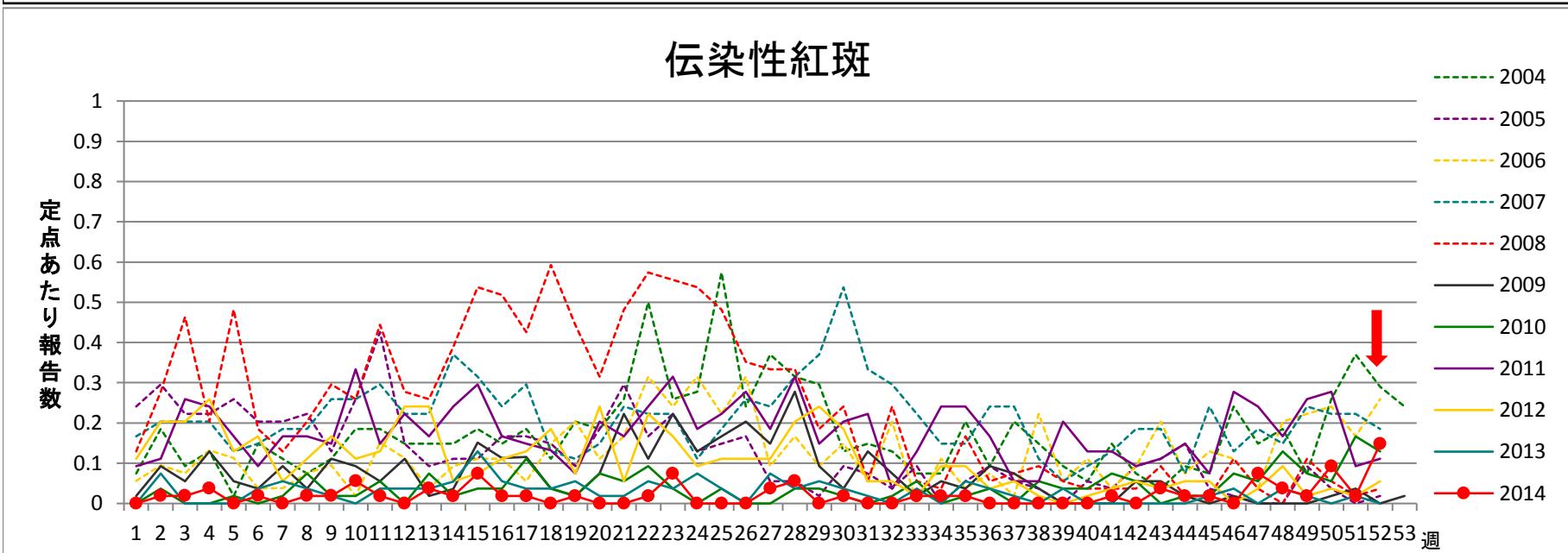
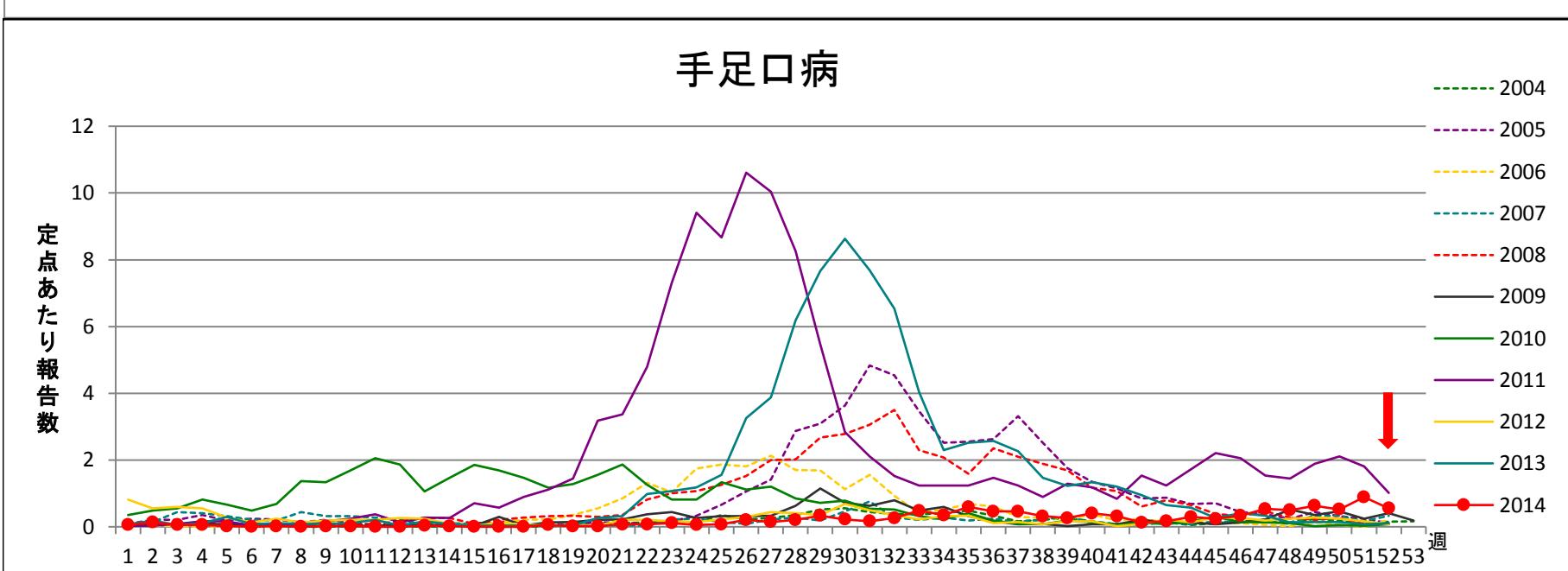
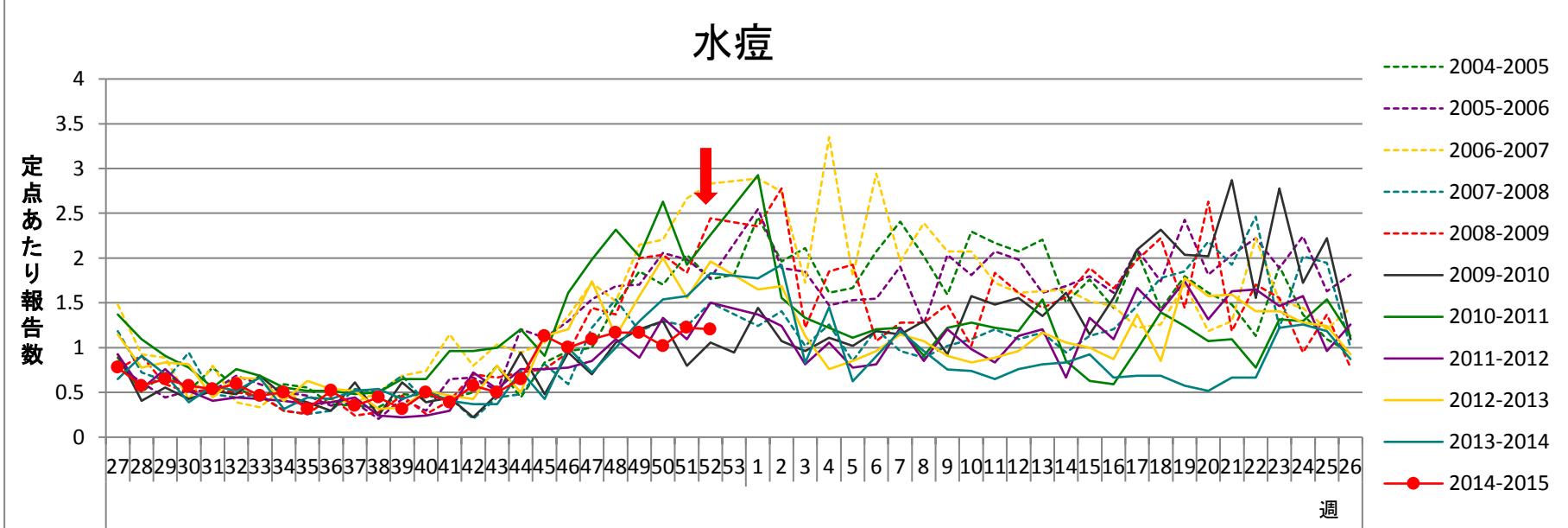
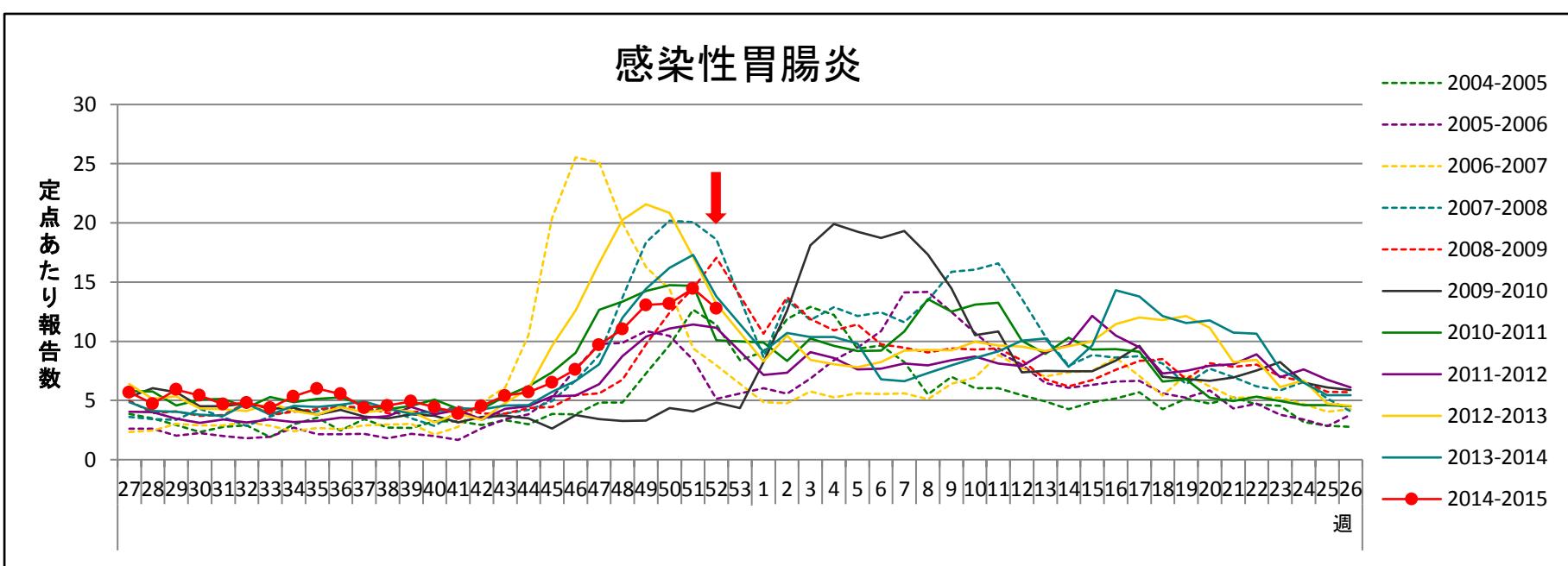
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

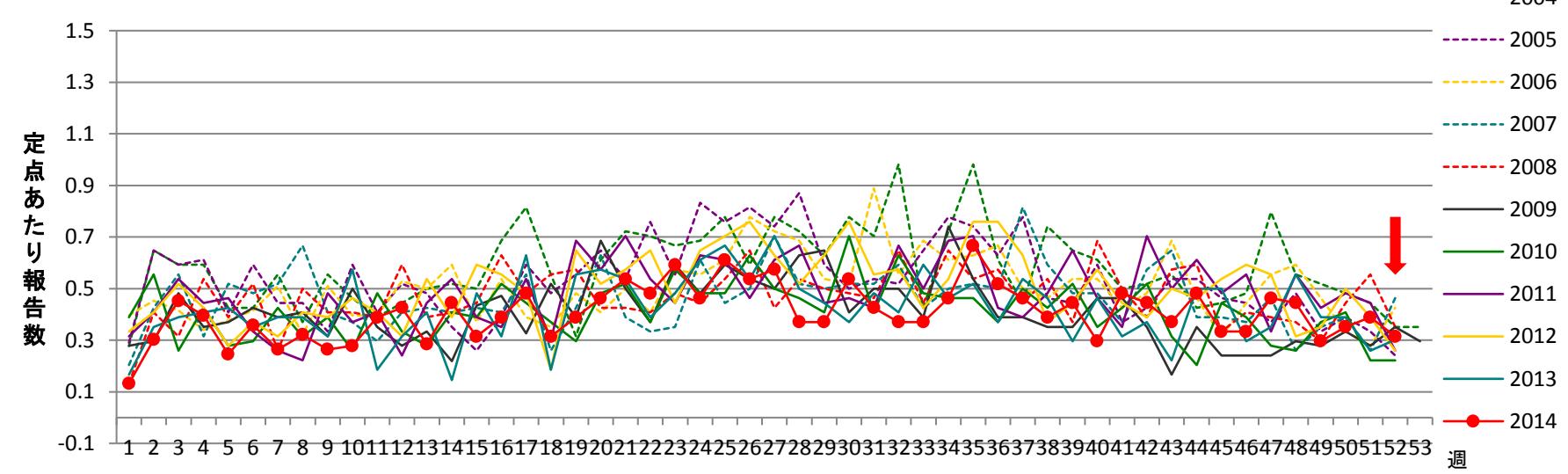
2014年 52週

分類	疾病名	2014			2013			疾病名	2014			2013			
		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	—	—	—	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	痘そう	—	—	—	—	—	—	
	南米出血熱	—	—	—	ペスト	—	—	マールブルグ病	—	—	—	—	—	—	
	ラッサ熱	—	—	—		—	—		—	—	—	—	—	—	
二類	急性灰白髄炎	—	—	—	結核	2	361	358	ジフテリア	—	—	—	—	—	—
	重症急性呼吸器症候群	—	—	—	鳥インフルエンザ(H5N1)	—	—	—		—	—	—	—	—	—
三類	コレラ	—	—	—	細菌性赤痢	—	—	—	腸管出血性大腸菌感染症	1	70	87	—	—	—
	腸チフス	—	—	1	パラチフス	—	—	—		—	—	—	—	—	—
四類	E型肝炎	—	2	—	ウエストナイル熱	—	—	—	A型肝炎	1	8	5	—	—	—
	エキノコックス症	—	—	—	黄熱	—	—	—	オウム病	—	—	—	—	—	—
	オムスク出血熱	—	—	—	回帰熱	—	—	—	キヤサヌル森林病	—	—	—	—	—	—
	Q熱	—	—	—	狂犬病	—	—	—	コクシジオイデス症	—	—	—	—	—	—
	サル痘	—	—	—	重症熱性血小板減少症候群	—	2	2	腎症候性出血熱	—	—	—	炭疽	—	—
	西部ウマ脳炎	—	—	—	ダニ媒介脳炎	—	—	—	デング熱	—	1	—	ニパウイルス感染症	—	—
	チクングニア熱	—	—	—	つつが虫病	—	2	—	ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	ブルセラ症	—	—
	東部ウマ脳炎	—	—	—	鳥インフルエンザ	—	—	—	発しんチフス	—	—	—	野兎病	—	—
	日本脳炎	—	—	1	日本紅斑熱	—	4	2	リフトバレー熱	—	—	—	リフトバレー熱	—	—
	Bウイルス病	—	—	—	鼻疽	—	—	—	レプトスピラ症	—	—	2	レプトスピラ症	—	—
	ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—		—	—	—		—	—
	ボツリヌス症	—	—	—	マラリア	—	—	1		—	—	—		—	—
	ライム病	—	—	—	リッサウイルス感染症	—	—	—		—	—	—		—	—
	類鼻疽	—	—	—	レジオネラ症	—	31	24		—	—	—		—	—
	ロッキー山紅斑熱	—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—
五類	アメーバ赤痢	—	11	20	ウイルス性肝炎*3	—	7	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	—	11	—	—	—	—
	急性脳炎*4	—	9	5	クリプトスボリジウム症	—	—	—	クロイツフェルト・ヤコブ病	—	1	4	—	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	—	3	3	後天性免疫不全症候群	—	20	18	ジアルジア症	—	1	1	—	—	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	—	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	—	—	—	侵襲性肺炎球菌感染症	—	25	20	—	—	—
	水痘(入院例に限る。)	—	5	—	先天性風しん症候群	—	—	—	梅毒	—	20	8	—	—	—
	播種性クリプトコックス症	—	—	—	破傷風	—	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	—	2	1	風しん	—	2	76	麻しん	—	6	3	—	—	—
	薬剤耐性アシネットバクター感染症	—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—

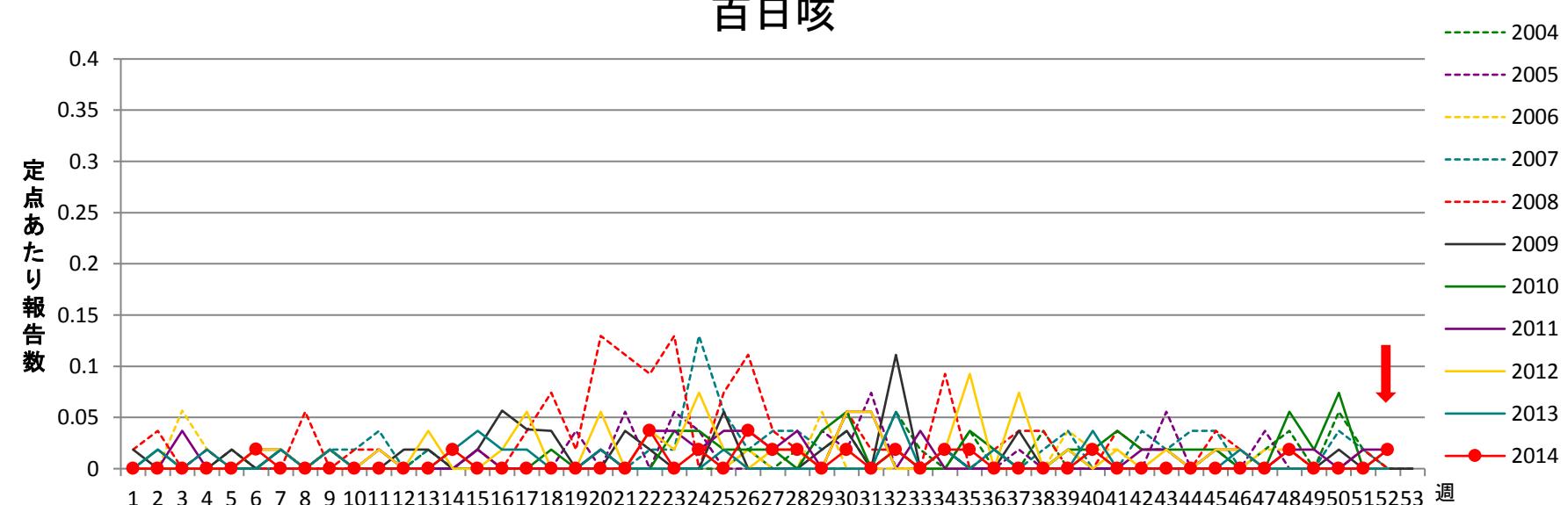




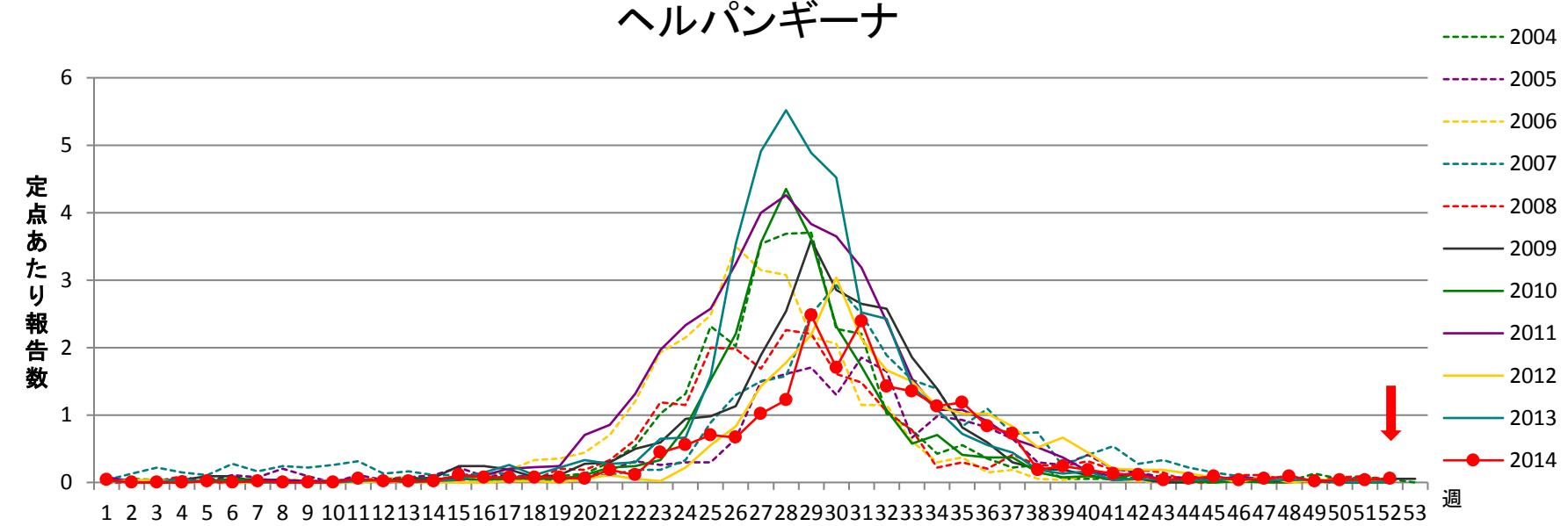
突発性発疹



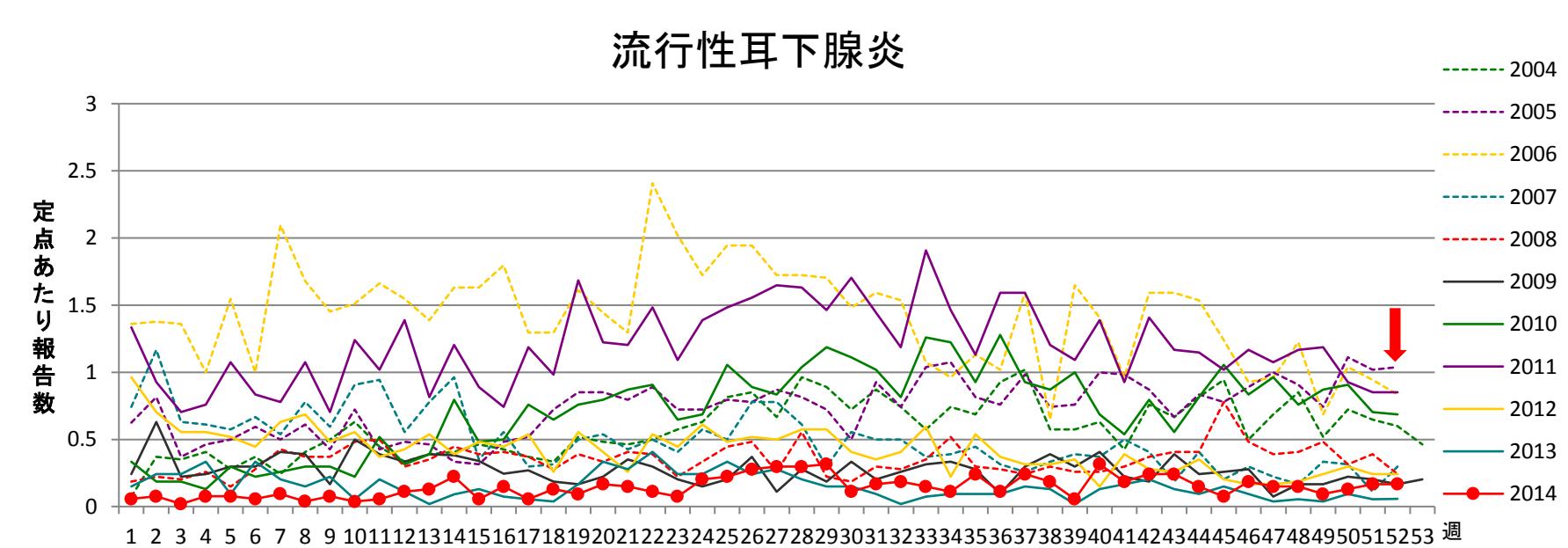
百日咳



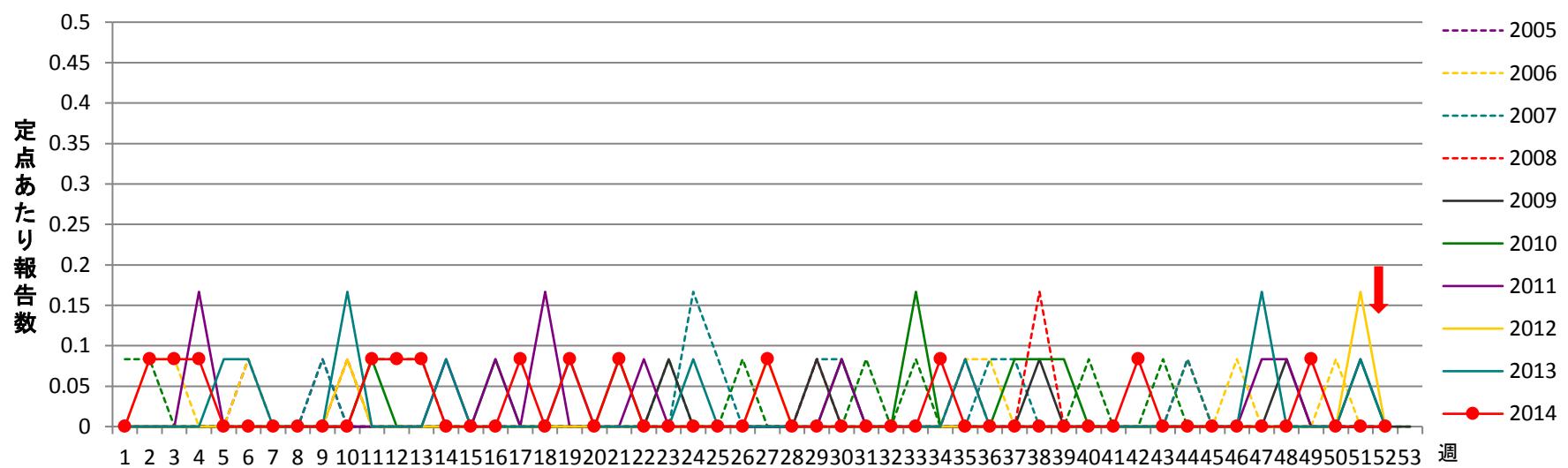
ヘルパンギーナ



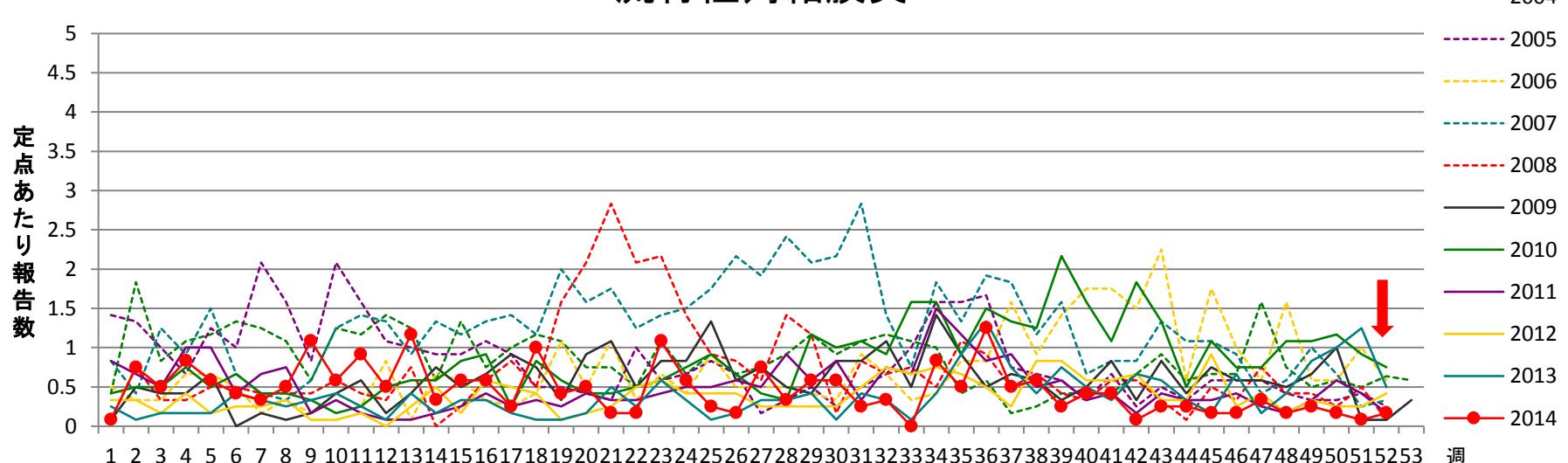
流行性耳下腺炎



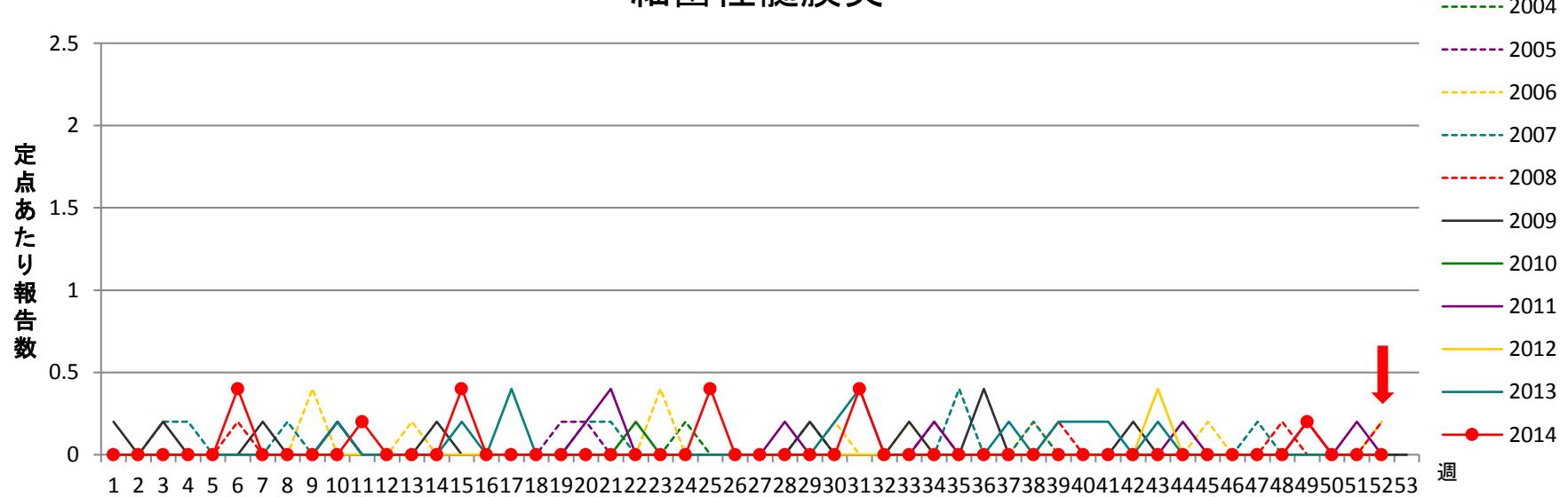
急性出血性結膜炎



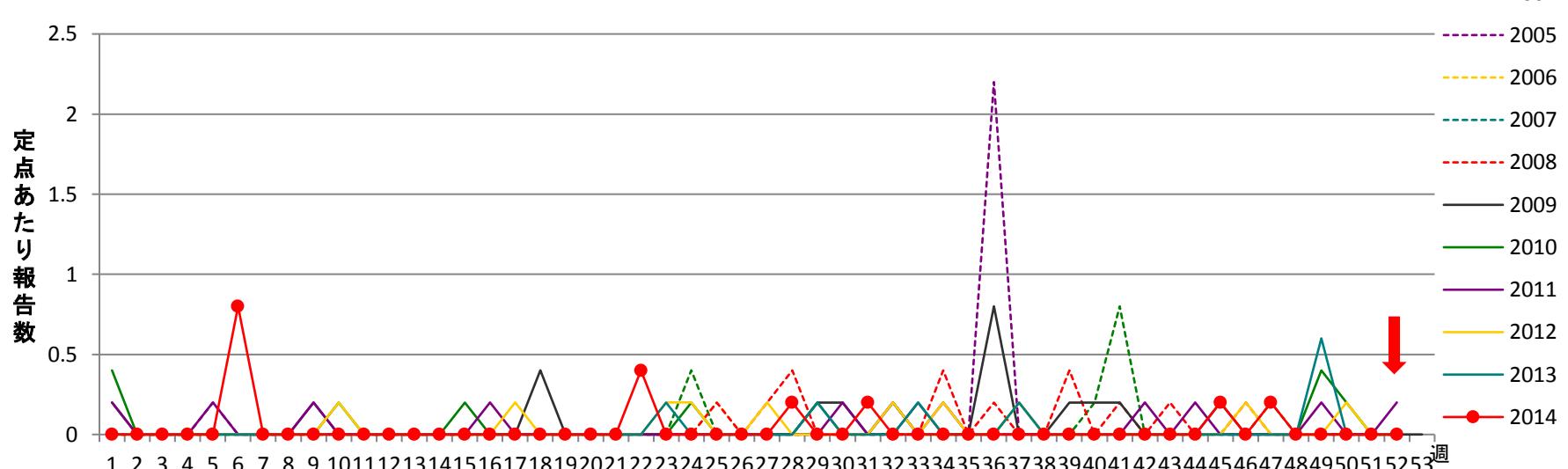
流行性角結膜炎



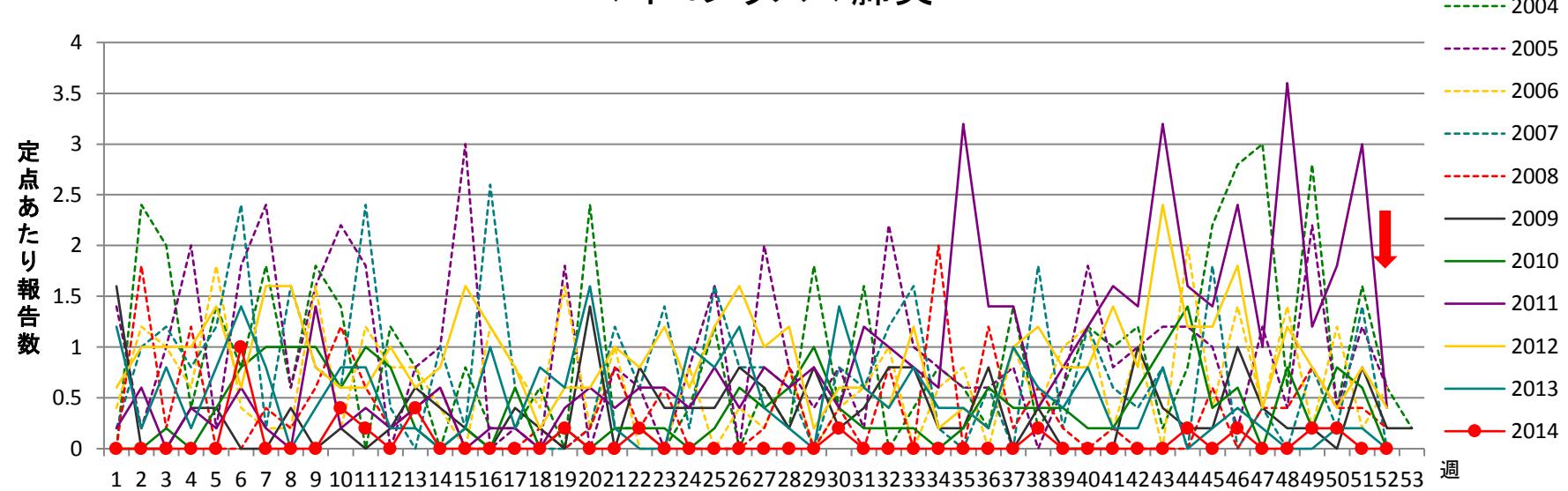
細菌性髄膜炎



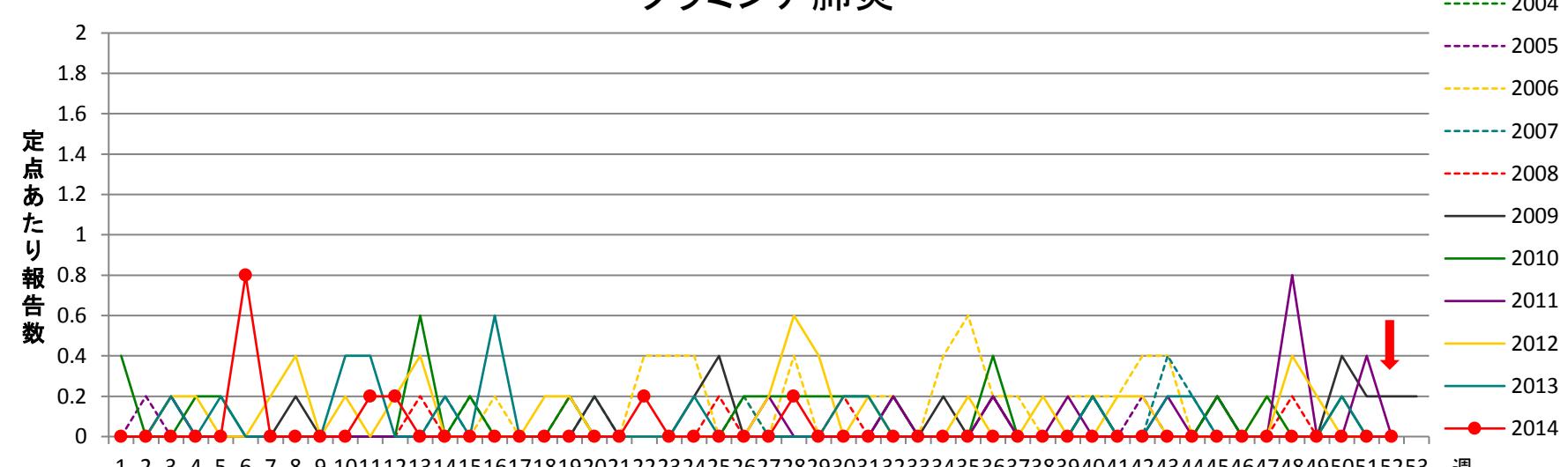
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

